

受験番号	
------	--

## 令和2年度推薦・指定校推薦入学試験 小論文課題

[設問]

次の文章を読んで、下線部について、あなたの考えを800字以内で述べなさい。

人工多能性幹細胞（iPS細胞）を世界で初めて開発した山中伸弥京都大学教授に対して、ノーベル医学・生理学賞が与えられた翌朝、私は当の山中教授は、さぞかし憂鬱でいらっしやるのではないかと全く余計なことを考えていた。

一般に小説家というものは、思い込み、独りよがりなどの性格的悪癖を持つ上、私はいいことより常に悪いことを考える性格なので、教授の研究は人間の生と死の意味を、もう一度長期にわたって根本から考え直さなくてはならない分野のまさに入口に立っているように思われたからである。受賞の歓びの翌日から、その理論の実用・発展に対して抑制の方向の研究も必要だとしたら、開発者である山中教授には早くもその責任が発生していることになるからだ。

私は自然科学的知識も才能も全くないので、こんな心配はとんちんかんなのかもしれないが、その日私は昔の体験を思い出していた。

(中略)

「古いものを直して直して使うのはいいんだけど、それをやっていると、どこかに無理ができて、必ずそのそばの古いところがまた破れてくるの」

だから母は、とことん修理はしないで捨てる、と娘の私に言いたかったのだろう。

人間の臓器も多分そうだろう。病変を起こした臓器は新しく取り換えられても、他の臓器が古いままだと、多分その継ぎ目や周辺からほころびが出るのは避けられない。

寿命という言葉は、ギリシャ語で「ヘリキア」と言い、驚くことに「寿命」という意味だけではなく、「その職業に適した年齢」「背丈」という意味も持つ。それらのものも、最近の人は医学で動かすことができそうな気配になってきた。現代人はギリシャ人のヘリキアの概念を圧倒するのか、その元の意味にやはり呑まれるのか。そしてどちらが幸福なのか、大きなドラマだ。

【曾野綾子「生身の人間」より抜粋】